

豊川市ファシリティマネジメント 公共施設適正配置計画ニュース

豊川市総務部管財契約課
電話 0533-89-2108 FAX 0533-89-2163
<http://www.city.toyokawa.lg.jp/shisei/gyosei/unei/manejiment/facilitymanagement.html>



【発行にあたって】

本市では、公共施設の老朽化が進み、今後一斉に更新時期を迎えることから、更新費用の増大が見込まれており、また、少子高齢化や人口減少など社会状況の変化に伴い公共施設を取り巻く環境も大きく変化しています。こうした状況を踏まえ、市では「ファシリティマネジメント」という手法を導入し、土地・建物・設備などの財産を経営的な視点に基づき適正な施設配置と効率的な管理運営の実現に向けた取組みを実施しています。

このニュースは、本市の公共施設適正配置をはじめとするファシリティマネジメントに関する取組みについて、広く市民の皆さんに知っていただくことを目的に発行しています。身近な公共施設を含めた、公共施設全体のあり方を市民の皆さんと共に考えていきたいと思っております。今後ともご愛読いただき、ご意見をいただければ幸いです。

■ 第1回 豊川市公共施設適正配置計画策定委員会を開催しました

平成26年7月3日（木）に第1回豊川市公共施設適正配置計画策定委員会を開催しました。

これは、学識経験者や関係団体代表等で構成し、豊川市におけるファシリティマネジメントの今後の指針となる計画「豊川市公共施設適正配置計画」の策定に向けて議論する会議です。今年度は4回程度の開催を予定しており、老朽化施設の統廃合、機能や利用圏域の重複する施設の多機能化・複合化等への実施プランとなる「公共施設適正配置計画」を取りまとめることとしています。

【第1回策定委員会の内容】

- 1 開会
- 2 本策定委員会について
- 3 市長挨拶
- 4 委員長の互選
- 5 副委員長の指名
- 6 議事
 - (1) 豊川市公共施設適正配置計画策定業務の概要及び必要性について
 - (2) 豊川市公共施設の配置状況について
 - (3) 今後10年間の建替え及び大規模改修を要する施設候補
 - (4) 先進事例について
- 7 その他
- 8 閉会

市長挨拶

冒頭の市長の挨拶では、「公共施設や公共インフラをいつまでも安全で快適に使っていただくことは自治体の大きな責務である。そこで、公共施設配置の将来計画となる「豊川市公共施設適正配置計画」の策定は、本市にとっても将来のまちづくりを左右する大変重要な取り組みである」と挨拶がありました。



委員長、副委員長の選定

策定委員会は、学識経験者や関係団体代表など 10 名の委員によって組織されています。委員長には愛知大学教授の阿部聖氏、副委員長には豊橋技術科学大学教授の松島史朗氏が選出されました。

阿部委員長からは、「専門の先生方から地元で活躍されている方もいらっしゃるので、皆様の協力を仰ぎながら進めていきたい」と挨拶がありました。



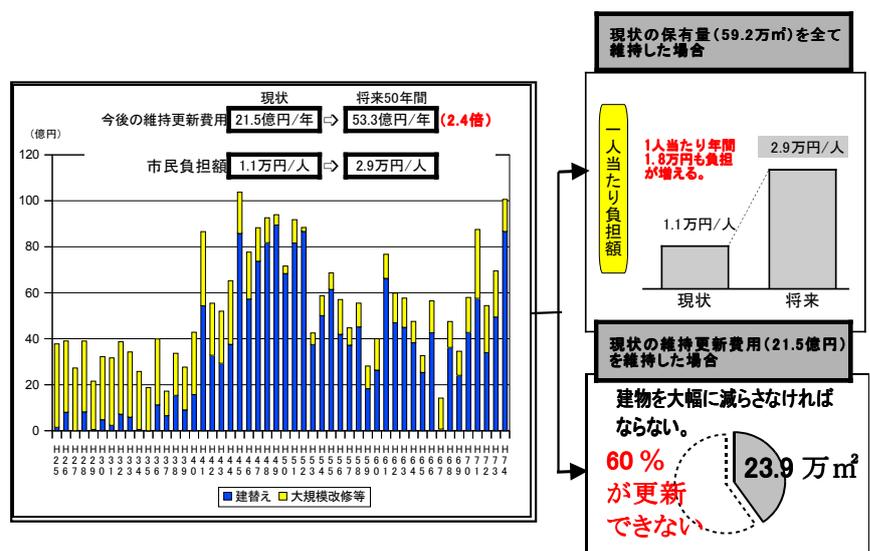
豊川市公共施設適正配置計画策定業務の概要及び必要性について

本市では、平成 24 年度に「豊川市公共施設白書」を策定し、そこから見えてくる課題や公共施設の利用状況等の分析及び住民アンケート調査から、施設評価を実施し、公共施設全体の適正配置に向けた削減目標を定める「公共施設の削減目標及び用途別における施設の方向性」を昨年度に策定しました。

今年度は、本方針に基づいて、老朽化施設の統廃合、機能や利用圏域の重複する施設の多機能化・複合化等への実施プランとなる「公共施設適正配置計画」を策定し、さらに、翌年度以降には施設の重点度、改修等の緊急度を基に、「公共施設長寿命化計画」を検討することとしています。

豊川市には現在 59 万 2 千㎡の公共施設（病院、職員宿舎は除く。）があり、これらをそのまま維持し続けた場合、将来、市民一人当たりの負担額が 1.1 万円/人から 2.9 万円/人と年間 1.8 万円（2.6 倍）も負担額が増加します。

現状の維持更新費用(平成 23 年度決算 21.5 億円)では、現在の公共施設の 23 万 9 千㎡(40%)しか更新できず、60%が更新できなくなります。このままの状況で何も対策を講じなければ、老朽化による施設の“使用禁止”、あるいは“財政破たん”を招くことになるため、公共施設マネジメントが必要になります。



資料：公共施設マネジメントの必要性（豊川市公共施設の削減目標及び用途別における施設の方向性より）

豊川市公共施設の配置状況について

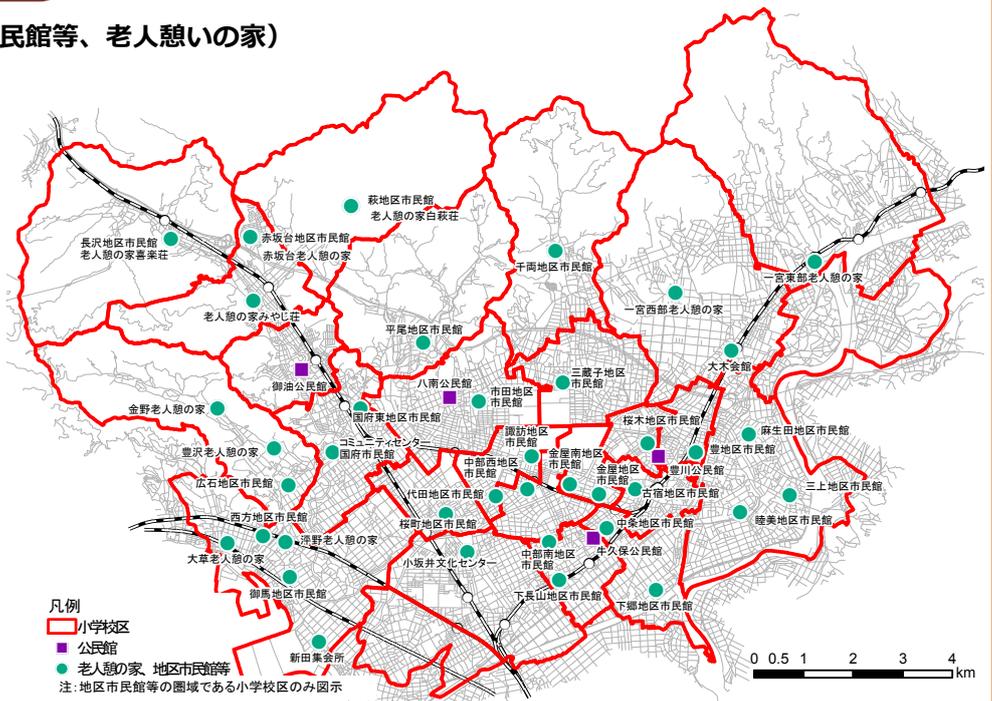
豊川市が保有する施設(建物)には、市役所や支所のように市の事務所として使用されているものや、学校及び保育園、体育館、文化会館、公民館、図書館等広く市民に利用されている施設があります。また、コミュニティセンター・国府市民館のように高齢者相談センター、児童クラブ室等いくつかの施設が一つの建物にあるものもあります。平成 25 年 4 月現在、全施設を合わせると 521 施設、1,287 棟、延床面積 59 万 2 千㎡となっています。

施設用途別、中学校区別の公共施設の配置状況について、一例を以下に示します。

施設用途別の配置状況の一例

公民館等（公民館、地区市民館等、老人憩いの家）

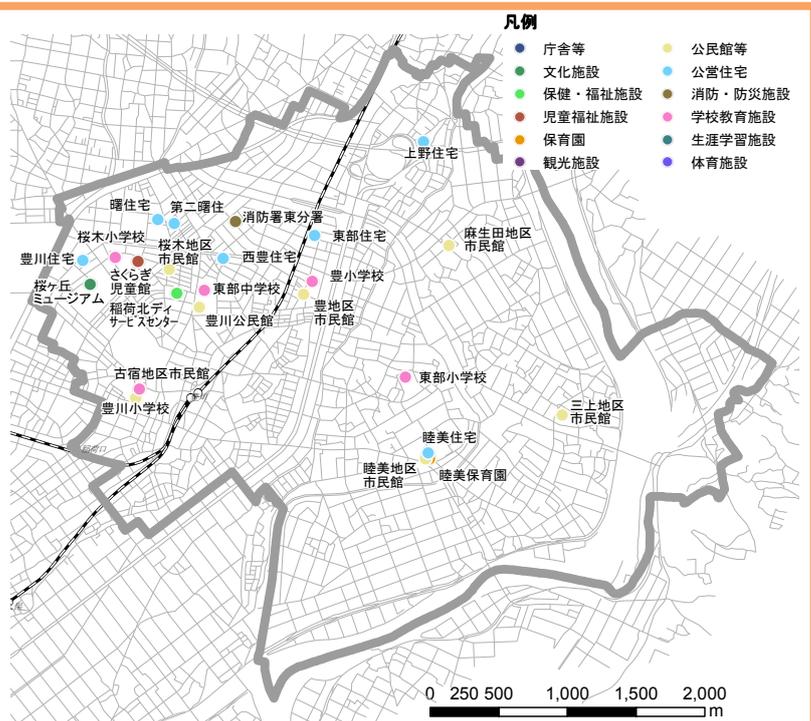
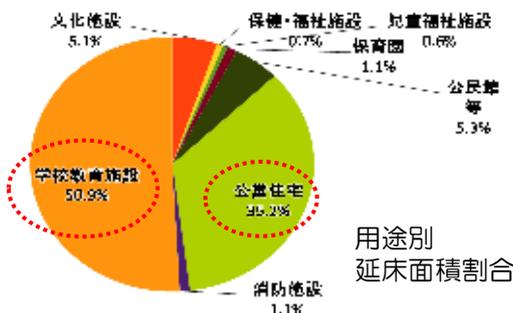
- 公民館が市内に 4 施設、地区市民館等が 31 施設、老人憩いの家が一宮地域に 2 施設、音羽地域に 4 施設、御津地域に 4 施設配置されています。
- 公民館は全ての施設が築後 30 年以上を経過し、老朽化が進んでいます。地区市民館等や老人憩いの家は、築後 20～30 年の施設が多いが、おおむね良好な状態を維持しています。



中学校区別の配置状況の一例

東部中学校区

- 東部中学校区は、JR豊川駅周辺を含み、地域生活拠点としての位置付けとともに、諏訪地区とともに中心市街地の一角を形成しています。
- 総施設数は 24、延床面積の合計は約 6.7 万㎡です。用途別延床面積割合では、学校教育施設が約 59%、公営住宅が約 35%と大きくなっています。



今後10年間の建替え及び大規模改修を要する施設候補

前述のとおり、今後多くの公共施設で建替えや大規模改修が必要となり、現状の維持更新費用では約4割の施設しか更新できない見込みとなります。

今後、以下のような、概ね10年から15年以内に建替えや大規模改修を迎える施設候補を中心として、適正配置計画の策定に向けた議論を重ねてまいります。

「建替え」を要する主な公共施設候補	「大規模改修」を要する主な公共施設候補
<ul style="list-style-type: none"> ◆小坂井中学校、小坂井東小学校、小坂井西小学校、萩小学校、一宮東部小学校、一宮西部小学校、中部小学校 ◆日暮住宅、大恩寺住宅 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本庁、一宮庁舎、御津庁舎、小坂井庁舎 ◆御油公民館、牛久保公民館、豊川公民館 等 ◆小坂井生涯学習会館、御津生涯学習会館 等 ◆牛久保保育園、萩保育園、小坂井北保育園 等 ◆武道館、文化会館、勤労福祉会館、保健センター、地域福祉センター等

今後の予定

今年度は、老朽化施設の統廃合、機能や利用圏域の重複する施設の多機能化・複合化等への実施プランとなる「豊川市公共施設適正配置計画」を策定する予定です。策定委員会は、12月頃までに全4回程度を開催し、並行して開催する市役所内の「FM※推進会議」とともに、具体的な検討を重ねてまいります。あわせて、老朽化の進む施設の強度などを詳しく調査する「公共施設構造体耐久調査」を実施します。

翌年度以降には、今年度の検討成果をふまえ、施設の重点度、改修等の緊急度を基に、「公共施設長寿命化計画」を検討していく予定です。

※FM：ファシリティマネジメント



【豊川市公共施設適正配置計画策定委員会は公開しています】

次回※以降の策定委員会も公開で開催します。傍聴を希望される方は、市ホームページにて、順次ご案内していく予定です。のでご覧ください。

また、会議の資料等も市ホームページで公開しておりますので、是非ご覧になってください。

※8月7日（火）午後2時から、本庁3階の委員会室を予定しております。

<問い合わせ先>

豊川市総務部管財契約課

電話 0533-89-2108 FAX 0533-89-2163

<http://www.city.toyokawa.lg.jp/shisei/gyoseiunei/manejiment/facilitymanagement.html>

